

1 上位計画の目標・方向性

<p>【策定中・仮称】 第9次豊田市総合計画 「ミライ構想」</p>	<p>➤ 将来都市像（2050年を展望） 『つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた』</p>		
<p>【策定中・仮称】 ミライ実現戦略 2030</p>	<p>取組方針2 ともにミライにつながる まちをつくる</p>	<p>取組目標③ 産業中枢都市として 深化し続けるまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新事業展開や、新製品開発へのチャレンジの促進 ・市内事業者の経営力強化の支援 ・戦略的な基盤整備や立地支援 ・市内産業のDX・GX化の推進（産業の脱炭素の支援） ・多様な働き方の選択肢の充実

2 国内外の社会経済潮流

重要な視点

➤ 不確実性の高い社会経済情勢や自動車産業大変革期の中、それらの動向を注視しつつ、人口減少社会やGX・DX、スタートアップエコシステムの形成等の新たな潮流に対応する必要がある。

<p>【考慮すべき潮流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギー問題の深刻化（価格高騰と調達難、経済安全保障の顕在化） ・自動車産業の変革（電動車の世界的普及、ギガキャストなどの生産方式の革新、SDVなどによるクルマにおける付加価値の変化） ・生成AI、メタバース、次世代通信規格（IWON）等の新しい情報通信技術への対応 ・消費リーダーとしてのZ世代の台頭（モノからヒト・コトへ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代における豊かさの再定義（ウェルビーイングの実現） ・新しい資本主義への取組（GX・DX等投資、スタートアップ育成など） ・多様な働き方、キャリアパスの定着（リモート・テレワーク、副業、リスキリングなど） ・大廃業時代の到来、企業の高齢化と技術承継への懸念 ・社会情勢などによるサプライチェーンの寸断リスク（物流の2024年問題など）
--	---

3 豊田市産業の現状

重要な視点

➤ 大手自動車メーカーの動向、業績に左右される産業構造であり、起業や新規事業展開への意欲・関心が低く、急激な産業構造転換に対応できない恐れがあるため、企業が個々の強みを理解し、QCD特化の体質からの脱却が重要となる。

➤ 女性の年齢別労働力率の谷の大きさや製造業への労働力集積等、当市の特性を加味しながら、多様な働き方ができる職場環境を整備し、中小製造業や運輸業等における人材不足・採用難へ対応する必要がある。

➤ 人材不足やノウハウの不足で停滞しているGXやDXを推進し、市内企業の生産性や競争力の向上を目指す。

(1) 統計データ【資料2-1】

<p>【産業構造】 製造品出荷額等は全国市町村第1位。自動車産業に大きく依存。完成車メーカーを頂点としたピラミッド構造となっており、完成車メーカーの業績に左右される事業構造。（P.8,図表11、P.10 図表13,14）</p>	<p>【雇用・人材】 全国的な労働力減少の中、本市では男性を中心に労働力は比較的維持されている。また、女性の年齢別労働力率をみると、改善傾向にはあるものの、全国、愛知県に比べ、20代後半から30代までの労働力率の谷が深い。（P.19,図表25、P.20,図表26）</p>
<p>【産業の新陳代謝】 周辺都市等に比べ、開業率と廃業率は共に低く、産業の新陳代謝は活発でない。（P.15,図表20）</p>	<p>【新エネルギー車の普及】 中国・欧州市場を中心に普及が進み、BEV、PHEVの存在感が一層増す見込み。（P.13,図表17）</p>
<p>【事業所の集約化】 中小事業所が減少し、中堅以上の事業所が雇用の受け皿となっている。（P.17,図表22）</p>	<p>【起業に対する若年層の意欲】 起業に対する若年層の意欲・関心が低い状況。（P.24,図表32）</p> <p>【成長産業の集積】 成長が続くIT産業の集積率が低い。（P.25,図表33）</p>

(2) アンケート調査

① 豊田市ものづくり産業実態調査【資料 2-2,4,5,6】

【強みと弱み】生産加工技術に関する強みがある一方、人材育成・確保や市場開拓など営業力が弱み。
(資料 2-6,P.7,問 8)

【3～5年先の事業の見通し】「現在の事業規模を維持」が大半。H29 年度以降「休業または廃業」が
微増。(資料 2-4,P.8,問 24)

【直近の物価高に対する価格転嫁状況】「価格転嫁ができていない」事業所は半数に留まる。(資料 2-6,P.9,
問 12)

【BEV の普及に伴う売上高への影響】「わからない」とする事業者が過半。具体的なアクションがなく、
BEV の普及が自社事業に与える影響を図りかねている中小企業
が大半である。(資料 2-6,P.12,問 18)

【働き方改革】人員不足であり実施に伴う特定社員への業務集中への懸念から実施していない状況。

【人材の育成・確保】時間やノウハウ不足により中核人材の育成に取り組めていない状況。(資料 2-6,P.29,
問 50)

【デジタル化への対応】過半数が「特に進めていない」「ほぼ手つかず」といった状況。(資料 2-6,P.36,問
60)

【脱炭素への対応】予算不足等の課題を背景に、カーボンニュートラルの実施は2割超に留まる。(資料 2-
6,P.40,問 69)

【豊田市へ期待する支援施策】「人材育成・確保の支援」、「生産設備等への設備投資の支援」が大きい。(資
料 2-6,P.42,問 73)

② 豊田市物流事業者実態調査【資料 2-3,7,8】

【調達物流でのミルクラン方式普及の影響】受注量、売上高ともに減少しており、特に「売上高減少」
への影響が大きい。(資料 2-7,P.11,問 13)

【人手不足の状況】「かなり不足」、「やや不足」がそれぞれ4割程度。「トラック等のドライバー」の
不足は8割強と深刻。(資料 2-7,P.25,問 32,33)

【2024 年問題への対応】「対応を検討している」が7割弱と最も高い。対応策は「ドライバー勤務時間・体
制の見直し」が9割強。「配送ルート・スケジュールの見直し」が5割弱。(資料
2-7,P.30,問 42、P.31,問 43)

【豊田市へ期待する支援施策】「人材育成・確保の支援」が7割程度。「設備投資の支援」が3割程度、「事業
用地の確保」が2割程度。(資料 2-7,P.42,問 64)

③ 市民アンケート調査【資料 2-9,10】

【起業に対する意向】「関心がない」が7割程度。課題は「必要な資金がない」、「リスクが大きい」、「学
ぶ機会がない」等。(資料 2-9,P.42,問 24)

【学び直しに対する意向】「関心がない」が5割弱。課題は「時間がない」、「お金がない」等。(資料 2-9,P.44,
問 26)

【多様な働き方に対する潜在ニーズ】「副業・兼業」が3割強。「時差出勤・フレックスタイム」、「在宅勤
務・テレワーク」はそれぞれ1割程度。(資料 2-9,P.47,問 30、
P.49,問 33、P.50,問 34)

【就労に向けて必要な支援】「柔軟な勤務時間」が6割程度、「休暇取得のしやすさ」が5割程度。(資料
2-9,P.55,問 39)

(3) 事業者・団体ヒアリング調査 (作業進捗中)

- ・大手自動車メーカーに依存した産業構造のため、第二創業など新事業展開への関心が薄い。電動化に伴う構造転換への備えも不十分。他市よりも経営が安定している企業が多い。(中堅・中小企業、商工団体・金融機関、支援機関)
- ・EV の本格生産に伴う新たな生産方式の導入などにより下請けメーカーの優勝劣敗が明確になり、生き残りに向けた競争が激しくなる可能性がある。(大企業、中堅・中小企業)
- ・中小ものづくり企業ほど採用難に陥っている。採用できても技術的な背景に乏しくミスマッチがみられる。外国人の採用も難しくなっている。物流の2024年問題もあり人手不足による生産活動への影響が懸念される。一方、省人化による効率化への機会と捉えることもできる。(大手企業、中堅・中小企業、商工団体・金融機関、支援機関)
- ・起業を促進する上で、会社経営の基本知識などを習得できる場などが求められる。(スタートアップ)
- ・中小企業で人材不足などを背景にDXやGXが遅れており、その推進に向けた支援が求められる。DX推進は専門家の伴走支援によるIT人材育成とあわせたプロジェクト推進が有効である。(商工団体・金融機関、ITベンダー)
- ・新卒学生の就活ルートは多様化しているため、行政が地元就職を促すような取り組みが重要。(支援機関)
- ・新技術導入等を進めているもののカーボンニュートラルの目標達成には依然厳しい状況にある。(大企業)
- ・中小企業のイノベーションを促すには「危機感」の共有や異業種交流による多様性への理解が重要である。経営者の交流会など、実施したいができていない。(市外製造業、支援機関)